



病院だより 2月号

麻酔について

士幌町国保病院
院長 藤原 大輔

皆様、こんにちは。寒い日々が続いているが体調管理は大丈夫でしょうか？私はしょっちゅう温泉に行ってます。先日はトムラウシ温泉に行きましたが、とてもいい湯でした。途中の十勝ダムもとても雄大でした。いい温泉があったら教えてください。

さて、今回は軽い読み物として、あまり知られていない麻酔の世界についてお話ししたいと思います。

手術の時に麻酔を受けたことがある方もいらっしゃると思います。麻酔科医は麻酔をするときに「麻酔をかける」と言います。まるで「魔法をかける」みたいですよね。そもそも、**医学を意味する Medicine** は、**Magic**（マジック）と語源が同じだと言われています。昔の人にとって医学は手品と同じように見えたのかもしれません。

麻酔薬というのは脳にある GABA 受容体というところを刺激するといわれています。GABA 受容体は人間をリラックスさせる働きがあり、麻酔というのは「超リラックスした状態」ともいえます。人間は寝ているときに呼吸がゆっくりになったり、血圧が下がったりします。麻酔中は非常に深く眠るわけですから、呼吸が止まったり血圧がもっと下がったりします。そのため、人工呼吸や点滴が必要になるというわけです。

麻酔薬には二種類あります、点滴から入れる静脈麻酔薬と、麻酔ガスを吸ってもらう吸入麻酔薬です。静脈麻酔薬は適切な量で使うと多幸感が生じるようで、ハッピーな気持ちで目が覚めることもあります。吸入麻酔薬は古くからあるもので、昔はクロロホルムとかでやっていました。現代はもっと副作用が少ないガスでやっています。

筋肉がほぐれている方が手術が容易なので、筋弛緩薬を点滴から投与することになります。この薬を投与すると一分ほどで全身の筋肉は弛緩した状態になります。興味深いことにこの筋弛緩薬は四肢や腹筋などの筋肉（随意筋）には効くのですが、心臓の筋肉や腸管（不随意筋）には効きません。なので、筋弛緩薬を投与しても心臓や腸の動きは止まりません。15年ほど前に筋弛緩薬をブロックする薬が開発されたのですが、その薬を投与すると一分ほどで元に戻すことができます。まさにマジックですね。

手術中は麻酔薬、筋弛緩薬以外に痛み止めとして医療用の麻薬を使っています。この麻薬は短時間で効果が切れるように作られています。依存性はありませんのでご安心ください。これら3つをバランスよく使うことで安全に手術が進行できるようになります。

外来でがの処置などで使うのは局所麻酔薬というものです。これは痛い場所に注射で打つものです。神経細胞の膜にはNaチャネルというものがあるのですが、これをブロックすると神経が動かなくなり、痛みを感じなくなります。

興味深いのは最初の局所麻酔薬はコカインだったということです。大昔コカインは歯痛の薬として、歯が痛いとコカインドロップを舐めていたようです。当たり前ですが、コカインだと依存性がありますから、それを克服すべく数々の局所麻酔薬が生まれて現代の薬となっています。その名残で現在も局所麻酔薬は「～～カイン」という名前になっています。

麻酔のことで分からぬことがあつたらお気軽にご相談ください。



▲新型コロナウイルス
予防接種ページ

新型コロナウイルス予防接種の予約受付中です！

接種日：2月10日（火）、3月18日（水） 15:00～16:00
町公式LINEまたはお電話（5-2106）でお申し込みください。
詳細は病院HP内の新型コロナウイルス予防接種ページをご覧ください。